

家族会

9/23(金)に平成28年度第2回家族会を開催しました。

今回は『口から食べることへの取り組み』と題して事例の報告と『なんぐん館の現状(入所、通所リハビリの現状)』の説明を行いました。『口から食べることへの取り組み』では、ある女性入所者の事例を報告しました。その一部を少し紹介します。

食事が摂れなくなり徐々に身体も衰弱してきている。これから先、どうしていくのか(胃ろうを造ることも選択肢に入れた)をご家族と話し合う予定にしていた。施設側は、食べられないことに対して、その時々身体機能に応じた栄養補給方法を考え対応していた。ある日、ご家族がおでんを持ってきたらペロっと食べた。これは、施設の栄養補給の取り組みにより食べられる体力がついたのだろうとも評価できるが、重要なことは、ご家族が「これなら食べるかな」と考えながら好きな物を持って来られる愛情だ。そのような双方の思いが繋がってよい結果となったのだろうと考える。ご家族は、「食の歴史」を知っている大事な存在であり、私たちと一緒に支援チームだと気付かされた。

今も、娘さんはあの時と変わらず「これなら食べるかな」と考え、昔好きだった物を持って来られています。そして、今も口から食べることを楽しんでいらっしやいます。その光景は親子の愛でいっぱいです。と、事例の紹介をさせていただきました。また交流会では、ご家族それぞれの体験談を話していただき、みんなで泣き笑いしながらの温かい家族会となりました。共感し合えることで気持ちが楽になった方もいらっしやったようです。

次回は来春を予定しております。大勢の方のご参加をお待ちしております。

支援相談員 守口法子

褥瘡委員会勉強会 9/16

今回は、県立南宇和病院より二人の認定看護師をお招きし、「食事・水分量が減っている利用者の対応」と「褥瘡のケア方法」について講演していただきました。認知面の低下により、食べることが困難となった時、一人一人の生活背景を知ることが大切であることやポケット(空洞)のある褥瘡に対し、今施設で行っている処置方法の確認ができ、とても多くのことを学ぶことができました。



看護師 宮崎逸子

全国介護老人保健施設大会 in大阪

9月14日から16日まで、全国介護老人保健施設大阪大会に参加して来ました。全国各地の老健施設が取り組んできた事例の発表を聞いて、今後成長し続ける施設を目指し、新たな取り組みや、これまでしてきた事の強化をしていかなければならないと感じました。

支援相談員 豊岡秀晴



南宇和高校インターンシップ



私は、インターンシップを体験し、人との関わり大切さを学ぶことができました。他にも入所者の方々をすべて理解した上での、入所者一人一人にあった食事やリハビリの方法などがあり、改めて介護という仕事の大変さを知りました。さらに介護させていただく事の楽しさや喜びを知ることができました。

(生徒さんの感想より抜粋)